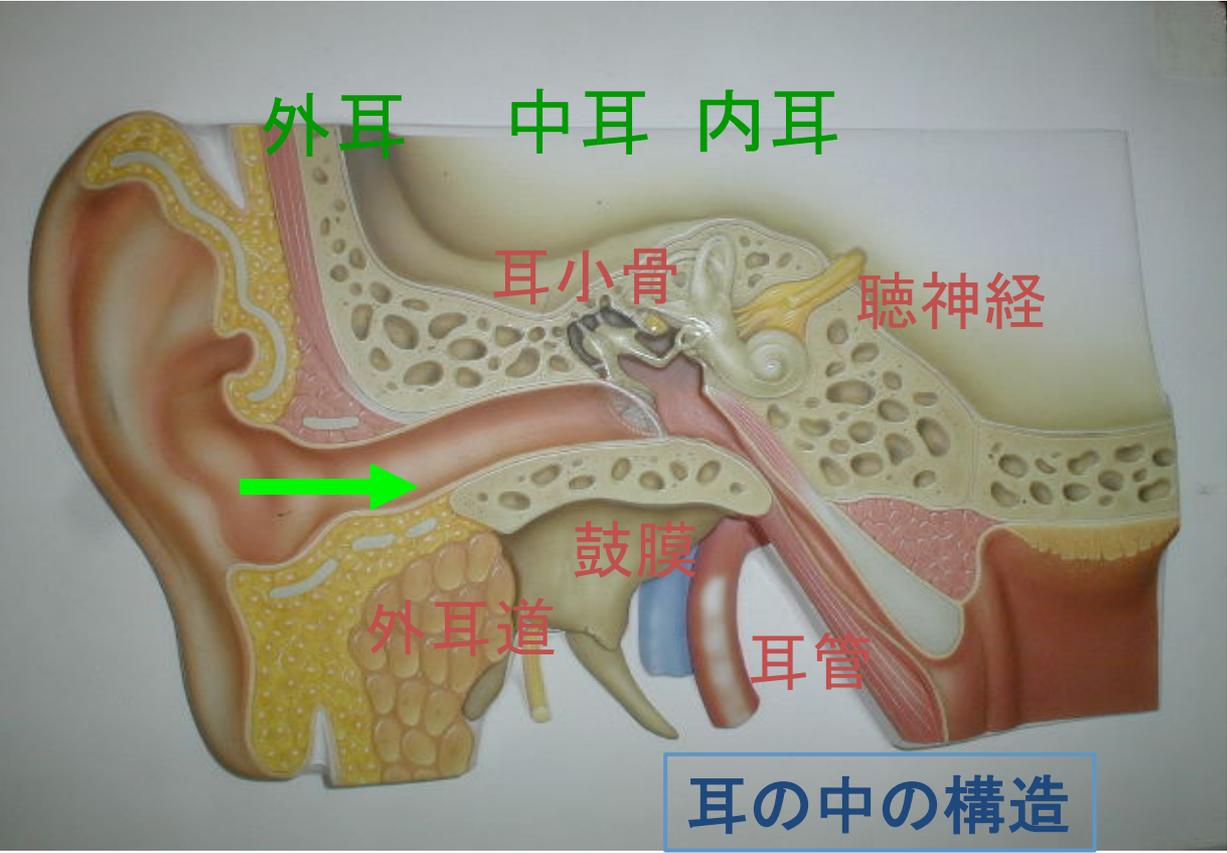


急性中耳炎について

急性中耳炎について

1. 耳の中はどうなっているの？
2. 中耳炎にはどうしてなるの？
3. 中耳炎になると、どんな症状があるの？
4. 中耳炎になると、どのような治療をするの？
5. 中耳炎をそのままにしておくと、どうなるの？
6. その他：治療に関する問題点

1. 耳の中は怎么样了しているの？



正常鼓膜(右側)

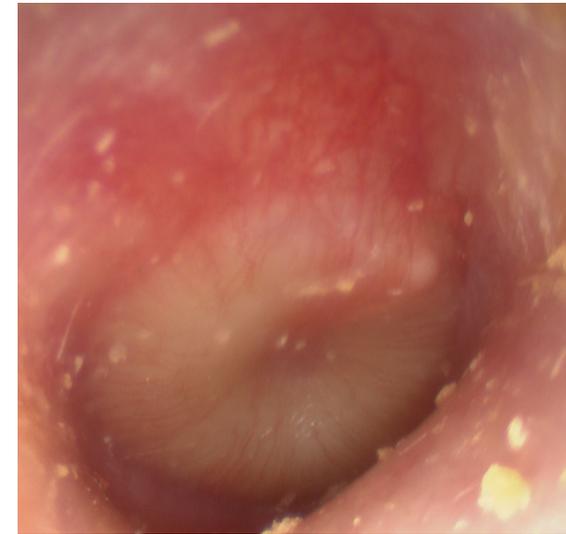
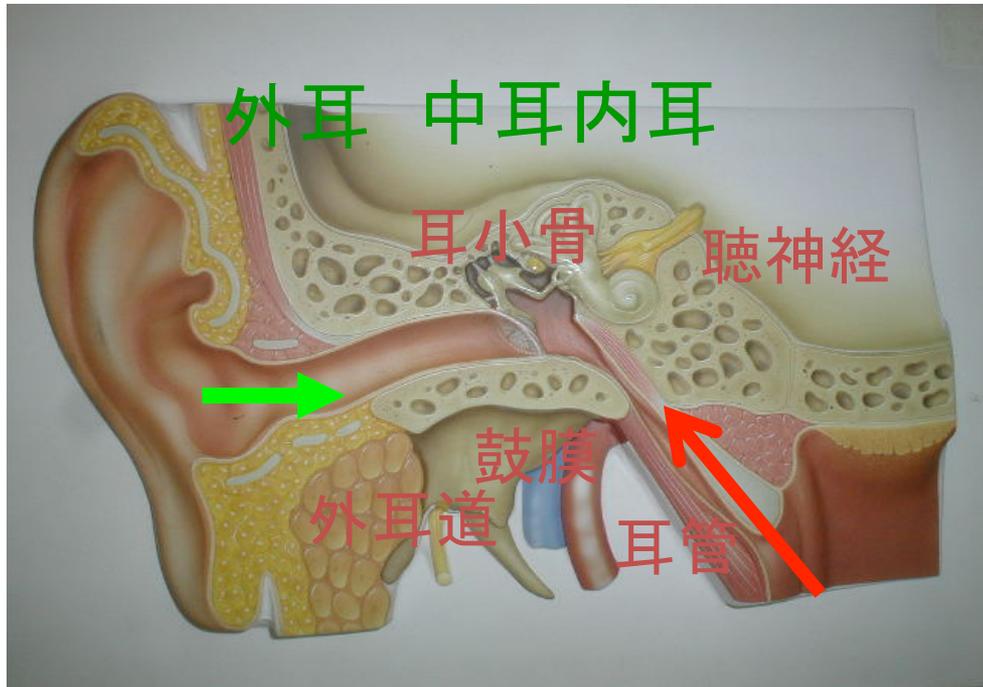
耳の中は、

- 1) 鼓膜の手前の耳の中 (外耳)
- 2) 鼓膜とその奥の空洞 (中耳)
- 3) さらに奥で耳の神経の末端 (内耳)

に分かれています

エレベーターで高層ビル等の高い所に上った時に耳がつまることではありますが、
耳の奥(中耳)と鼻の奥は、**耳管**という管でつながっており気圧の調整を行っています

2. 中耳炎にはどうしてなるの？



鼓膜が赤く腫れて、内側に黄色の膿が貯まっている

耳と鼻の奥は「耳管」という管でつながっています

風邪などで、のどが腫れたり、鼻水が多くなったりした時に、この耳管を介して細菌などの感染をおこし、耳の奥の「中耳」に炎症がおこることで「中耳炎」になります

また、この耳管は、子供さんでは大人に比較して太く短くまた水平であることと子供の免疫機能などの影響によって、子供で中耳炎をおこしやすくなります

中耳炎を引き起こす原因としては、ウイルスによるものもありますが、細菌性のものが多く、インフルエンザ菌、肺炎球菌、モラクセラ・カタラーリスの3種によるものが多くみられます

3. 中耳炎になると、どんな症状があるの？

皮膚が炎症を起こして化膿した場合を思い出してください
「炎症」を起こすと、一般的に局所が赤くなり、腫れて、痛みを伴い、熱感を持ち、ひどくなると膿を持つようになります

同じく、中耳炎(急性化膿性の場合です)を起こすと
耳が痛くなり、熱が出て、子供の場合は機嫌が悪くなり、泣いたり、鼓膜は腫れて赤くなり、ひどくなると耳だれがでるようになります

また、中耳炎になってしまう時には、鼻水やのどの痛み、咳などの上気道炎様症状をともなっています

「急性中耳炎」では、年齢、耳痛、発熱、不機嫌といった「症状」とともに鼓膜の赤さや腫れ具合、耳漏といった「鼓膜の状態」を見て点数をつけて軽症、中等症、重症に分類しています

4. 中耳炎になると、どのような治療をするの？

急性中耳炎の**重症度**によって治療法は異なります

「**軽症**」の場合には、対症療法といって、今ある困った症状の発熱や耳痛、鼻汁に対しての薬（鎮痛剤など）のみで**抗菌薬を使わず**に経過を見て、改善が見られないときに抗菌薬を使います

これは、必要に応じて抗菌薬を使い分けないと薬の効きが悪い細菌（**耐性菌**）が増えてくるためです

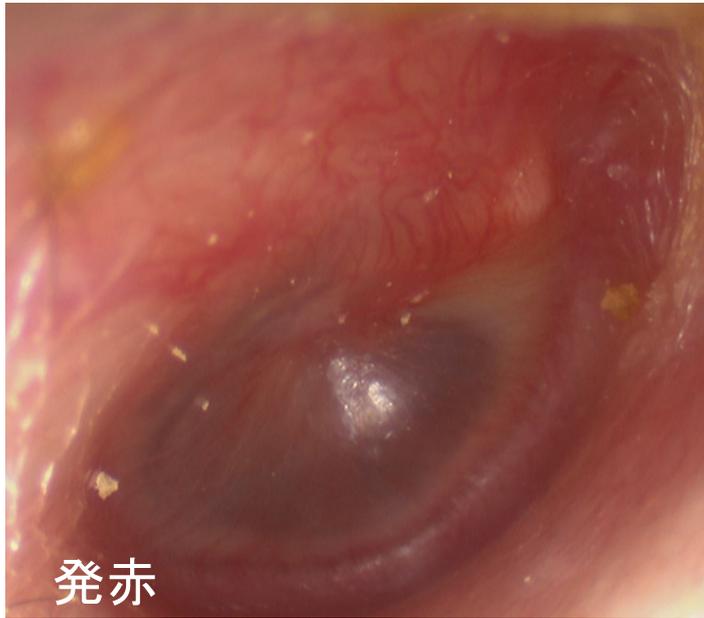
「**中等症**」以上の場合には、抗菌薬が必要であり、必要に応じて薬の種類や量を変更したりしますし、鼻汁の吸引処置も行います また、必要に応じて**鼓膜切開**といって鼓膜に小さな穴をあけて中の膿を出すことがあります

鼓膜の腫れや発赤が強く「**重症**」の場合には、高用量の抗菌薬に加えて**鼓膜切開**も行います さらに経過を見ながら、抗菌薬の種類や量を変更します

このように、重症度に応じて必要な薬（抗菌薬など）を飲んでいただき、同時に起こっている風邪症状などもしっかりと治すようにします

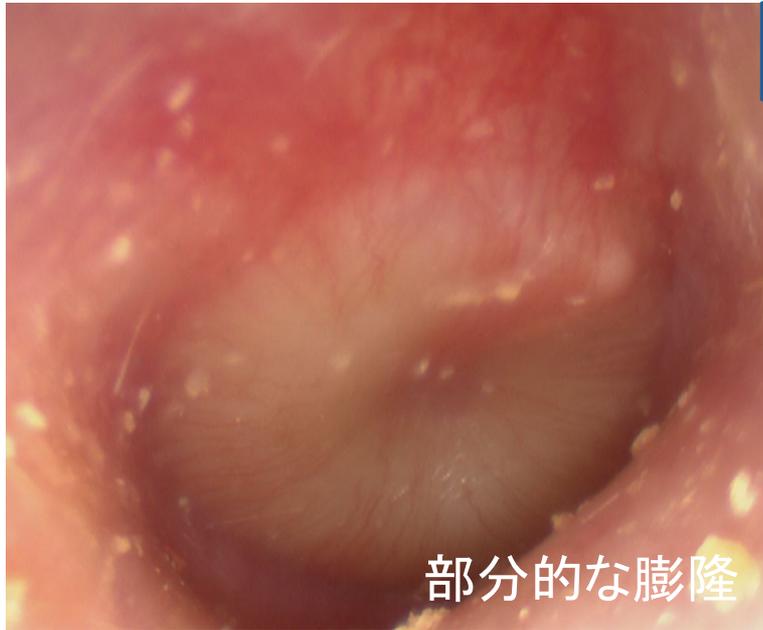
鼓膜所見による中耳炎の重症度

軽症



発赤

中等症



部分的な膨隆

重症



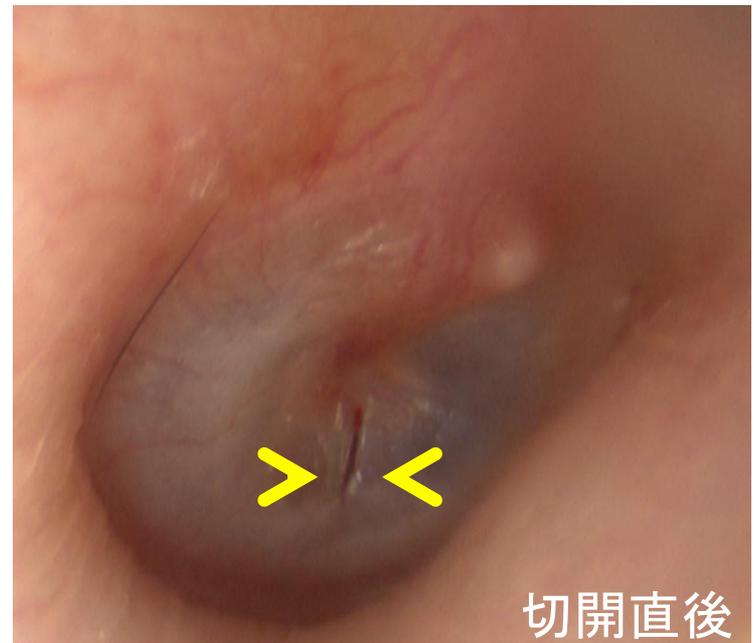
鼓膜全体の膨隆

鼓膜は混濁し貯留液もみられる

正常鼓膜



鼓膜切開



鼓膜の状態(発赤、膨隆)は中等度ですが、自覚的に耳閉感、聞こえにくい感じが強いため鼓膜切開を行いました

右の鼓膜と外耳道をイオン麻酔した後に、鼓膜の前下方に「切開」を加えました
鼓室内の粘膿性貯留液を吸引したところ、速やかに自覚的にも聞こえはよくなり、鼓膜の色調(黄白色に濁った状態から、薄く透き通った状態へ)も改善しています

5. 中耳炎をそのままにしておくと、どうなるの？

急性中耳炎では風邪などの上気道炎に伴って鼓膜の奥に炎症を起こしますが、治療が十分でないと痛みや熱などの症状が治った後、鼓膜の奥の炎症が持続して液体がたまった状態（**滲出性中耳炎**）に移行したり、鼓膜に穴が残り、時に耳漏を伴う状態（**慢性中耳炎**）、鼓膜が引っ込んで奥の壁にくっついた状態（**癒着性中耳炎**）などの後遺症を起こすことがあります

こういった中耳炎になると、聞こえが悪くなってしまうたり、耳漏が残ったりすることがあるので、急性中耳炎の時点でしっかり治すようにしましょう

6. その他：治療に関する問題点

1. 中耳炎の治療は症状（耳痛や発熱）が収まったらやめてもよいか？

耳痛、発熱、啼泣などの症状は、抗菌薬による治療開始から5日目くらいには90%以上で改善が認められますが、鼓膜の膨隆、発赤、混濁などの所見は約20%の症例で改善が見られたにすぎないとした報告があります

飲み薬（抗菌薬など）による治療によって耳痛や発熱、啼泣などの症状が治まっても急性中耳炎は治りきっていないことが多く、薬の治療をやめるとまた悪くなる危険性があります

症状が治まっても鼓膜の奥に貯留液があることが多いため、治りきるまでしっかり治療を続けてください

2. 飲み薬を飲むのは一日2回で大丈夫？

中耳炎に対して使用する抗菌薬は、薬の種類によっては2回で大丈夫なものもありますが、薬の種類によっては3回飲むことでしっかりした効果が見られるものもあります

保育園や幼稚園に通っている場合には昼間に薬を飲むことが難しい場合があります 3回飲む必要がある薬の場合には、家に帰ってきてから昼の分を飲んでいただき、夕方または夜にも飲むことなどで一日3回飲むようにするといった工夫をして薬が効果的に効くように使用しましょう